

●イギリス文学と文化をより深く知るための読む事典●

# イギリスの教会事典

## —英文学の背景を知る

三谷 康之 著 A5・670頁 定価(本体15,000円+税) ISBN978-4-8169-2648-8 2017年3月刊行

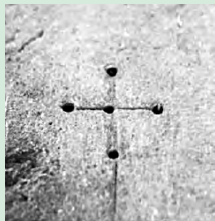
●シェイクスピアからケン・フォレットまで、英文学作品に必ずと言っていいほど登場するイギリスの“教会”について詳説する、「読む事典」です。

●建築・聖具・文化・風俗習慣・歴史まで、既存の辞書や参考書では調べられない用語・事項を多数収録。作家106人の192作品から、教会とその関連建造物が登場する場面も原文引用と翻訳で紹介。

●カラー口絵のほか、本文中には981点におよぶ写真・図版を掲載しています。

memento mori ▶

▼consecration cross



著者プロフィール 三谷 康之 みに・やすゆき

1941年生まれ。埼玉大学教養学部イギリス文化課程卒業。成城学園高等学校教諭、東洋女子短期大学英語英文科教授を経て、2002～10年まで東洋学園大学現代経営学部教授。1975～76年まで成城学園在外研究にて、英文学の背景の研究調査のためイギリスおよびヨーロッパにてフィールド・ワーク。1994～95年まで東洋学園在外研究にて、ケンブリッジ大学客員研究員。

主要著書 【単著】：『事典 英文学の背景—住宅・教会・橋』(1991年、凱風社)／『事典 英文学の背景—城廓・武具・騎士』(1992年、凱風社)／『事典 英文学の背景—田園・自然』(1994年、凱風社)／『イギリス観察学入門』(1996年、丸善ライブラリー)／『イギリスの窓文化』(1996年、開文社出版)／『童話の国イギリス』(1997年、PHP研究所)／『イギリスを語る映画』(2000年、スクリーンプレイ出版) 【共著】：『キーパー写真で見る英語百科』(1992年、研究社)／『現代英米情報辞典』(2000年、研究社出版)

### 目次 (Contents)

まえがき (Preface)

凡例 (Guide to the Encyclopaedia)

#### 第I部 Church Interior : 教会堂内

Cruciform Church / Nave / Aisle / Transept / Chancel / Choir / Apse; Apsis / Altar / Chapel / Crypt / Monument; Funeral [Funereal] / Monument / Pillar / Vault; Vaulted Ceiling [Roof]

#### 第II部 Church Exterior : 教会堂外

Church (-) Door; Church (-) Portal / Belfry / Buttress / Church Tower / Gargoyle; Gurgyle / Roof / Rose; Rose Window; Rose-Window / Spire / Statues of Angels [Apostles; Saints]

#### 第III部 Churchyard : 教会境内

Churchyard; Church-Yard / Cemetery / Grave / Gravestone / Graveyard / Preaching Cross / Sexton

#### 第IV部 Supplement : 補遺

1. Parish Church: / Parish Church / Parishioner / Vicarage / 2. Monastery: / Monastery / 3. Church Architectural Style / Gothic style, the

#### 付録

本事典に引用した作家と作品の一覧 / 本事典で言及した大聖堂・修道院・(教区)教会・礼拝堂・その他の所在地 / 参考書目 / 索引

あとがき (Postface)

2017.2

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

イギリスの教会事典  
—英文学の背景を知る

定価(本体15,000円+税) ISBN978-4-8169-2648-8

冊



9784816926488

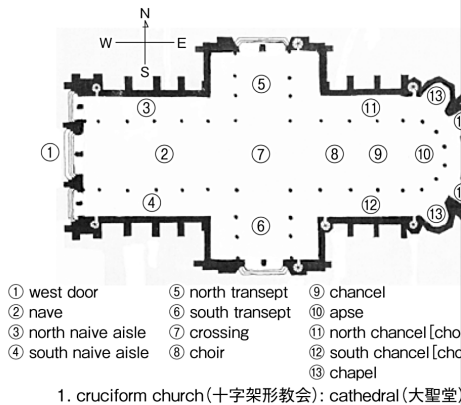
# Cruciform Church

## 十字形教会; 十字架形教会

キリスト教教会堂の平面図(ground[floor] plan)を描くと、身廊(nave\*)や側廊(aisle\*)を含む部分を十字架の主[縦]軸と見た場合、翼廊(transept\*)がそれと直角に交差する横軸になるため、こういう建築の教会を指している。説明的に換言すれば、'a cross-shaped church'とも、'a church built in the form[shape] of a cross'ともいえる。

また、'orientation'といって、祭壇(altar\*)が東、出入口(church door)が西に位置するような、羅針盤(compass)の方位に合わせた配置になつたり、祭壇の後の窓(east window\*: 後陣窓)は、昇る太陽が祭壇を照らすように設けられたわけである。その場合、ヨーロッパにはエルサレム(Jerusalem)があって、祭壇に向かって礼拝することにもなるのである。イギリスではこの配置は11世紀から一般的になる。

もっとも、古代には、その教会が献堂された聖人の日(the feast day)の方向が、教会堂の軸線(axis)が昇る太陽の方向を示すように設計され、その場合、教会堂は平行にはならないことになった。



『イギリスの教会事典—英文学の背景を知る』内容見本

### 【用例】

'the two arms of the cross-shaped church' (十字架形教会の2本の横木の部分) (Follett: Pillars) / the eastern end, the top of the cross... The western end, the tail of the cross' (十字架の天辺に当たる東端部(中略)十字架の末端に当たる西端部) (Follett: Pillars)

### 【文例】

\* All cathedrals and nealy all churches were cross-shaped. The cross was the single most important symbol of Christianity...

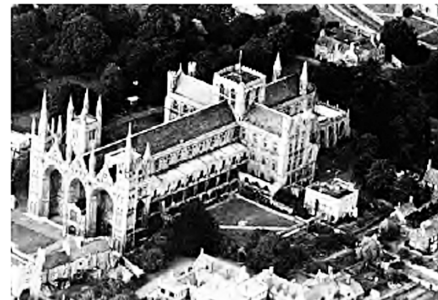
—K. Follett: *The Pillars of the Earth*

(大聖堂は全てが、それに教会のほとんど全てが十字架形であった。十字架はキリスト教の唯一にして最も重要なシンボルであった…)

\* Like most churches, Kingsbridge Cathedral was built in the shape of a cross. The west end opened into the nave, which formed the long stem of the cross. The crosspiece consisted of the two transepts which stuck out to the north and south either side of the altar.

—K. Follett: *The Pillars of the Earth*

(大抵の教会がそうであるように、キングズブリッジ大聖堂も十字架形であった。西端部は外陣へ通じ、外陣は十字架の縦長の部分に当たっていた。横木に当たるところは二つの翼廊で、祭壇の左右南北へ突き出す形になっていた。)



3. 十字架形教会。Peterborough Cath. [E], 左端が西側出入口(west door)。

## ■既刊

### イギリスの城廓事典—英文学の背景を知る

三谷 康之 著 A5・480頁 定価(本体8,200円+税) ISBN978-4-8169-2440-8 2013.11刊

### イギリス「窓」事典—文学にみる窓文化

三谷 康之 著 A5・480頁 定価(本体9,143円+税) ISBN978-4-8169-2075-2 2007.12刊

### 事典・イギリスの橋—英文学の背景としての橋と文化

三谷 康之 著 A5・280頁 定価(本体6,600円+税) ISBN978-4-8169-1877-3 2004.11刊

### イギリス紅茶事典—文学にみる食文化

三谷 康之 著 A5・270頁 定価(本体6,600円+税) ISBN978-4-8169-1718-9 2002.5刊